

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	SU WAH HLAING
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation Essays on Financial Crisis			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科 教授	柿中 真	印 Seal
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科 教授	市橋 勝	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科 教授	吉田 雄一朗	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科 准教授	高橋 新吾	
審査委員 Committee	国際大学大学院国際関係学研究科 准教授	LIN, CHING-YANG	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本博士学位論文は金融危機と経済・金融政策スタンスとの関係性について議論しており、当該研究は学術的のみならず政策的にも重要性の高い課題である。金融危機に関するマクロ経済学・国際経済学の分野における先行研究を踏まえ、計量経済学を応用しつつ、金融危機に関する3つの重要な課題について研究を行っている。一つ目は金融政策改革に関する研究、二つ目は、マクロ健全性規制及び資本移動規制に関する研究、三つ目は、グローバル不確実性に関する研究である。それぞれの研究課題は新規性・重要性が高く、国際経済学の視点に立った研究結果及び研究含意を導出したことは非常に高く評価できる。</p> <p>本論文は以下に示しているように5章から構成されている。</p> <p>序 章：導入 第2章：金融危機と金融政策改革 第3章：極端な資本移動：マクロ健全性規制及び資本移動規制 第4章：グローバル不確実性及び国際資本移動 終 章：結論</p> <p>主な内容は以下のとおりである。第2章では、様々なタイプの金融危機がどのような金融政策改革と関係しているのかについて包括的に分析している。研究結果としては、金融危機後、各国政策当局は金融自由化を促進させる一方、銀行部門の健全性規制には消極的であることが示された。この結果は、近年、開発途上国における銀行部門の健全性規制の重要性が注目されている中、重要な政策的含意を示している。第3章では、金融危機の一つである資本の極端な移動と近年着目されているマクロ政策当局によるマクロ健全性規制 (macroprudential policy) 及び資本移動規制 (capital flow management) との間どのような関係性があるのかを分析している。研究結果は、資本流入の急激な減少後においてはマクロ健全性規制 (macroprudential policy) を行い、資本流入の急激な増加後においては資本移動規制 (capital flow management) を行う傾向があることが示された。この結果は、各国政策当局の金融政策が、国際通貨基金 (IMF) が推奨する金融政策に沿っているという重要な意味を含んでいる。第4章では、金融危機の一つである資本の極端な移動とグローバル不確実性との関係性を分析している。研究結果はグローバル不確実性が資本移動の急激な変動と密接な関係性があることを示し、かつ、直接投資とポートフォリオ投資との間の違いも明らかにしている。第2章と第4章に関しては、Impact factor 付国際学術雑誌である European Journal of Political Economy 及び Applied Economics Letters にそれぞれ受理され、出版が決まっている。第3章については、現在、Impact factor 付国際学術雑誌に投稿しており、レビュー待ちの状況である。また、論文の一部については、IMF 等で口頭発表されている。これまでの研究を踏まえ、金融危機と金融政策に関する主要政策課題を体系的に構築・分析し、重要な政策的含意を導出していることは高く評価される。</p> <p>以上の結果、試験委員全員一致で、申請者が博士(学術)の学位を授与されるに十分な学識と能力を有しているものと認め、合格と判定した。</p>			